

野の仏ギャラリー⑱

十一面観音坐像

南多久町妙覚寺

光背、坐像、蓮華台が一体化して造られています。頭上の左右に計十面の菩薩、正面に一面の化仏が彫られ、合計十一面としています。左手に二茎の蓮華を持ち、右手は与願印の形です。天衣が肩部から腕を通り腰部まで垂れています。十一面観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の一つです。
銘「十一面観音」昭和十七年六月一日 施主武富傳三



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○頭上の十面は、菩薩の十段階の修行場面を表しています。
○頭上の化仏は、一般に阿弥陀如来を象徴していると考えます。
○与願印は衆生の願いをかなえますという印です。
○天衣はシヨール状の衣です。

今月の論語

命と與にし
仁と與にす

天から与えられたつとめを尽くす(使命を果たす)だけでなく、人の道にも背かないようにする。

今月の福宅放送は、東原岸舎中央校9年の藤田仁美さんです



教育長コラム

ちよとい話

その向こうにあるもの

学校では、保護者に確認の署名や捺印をお願いすることが度々ある。一筆記入する欄があることも。教科書を読んだとか、成績表を確認した、という類だ。お稽古や塾や地域でも似たようなことはあるかもしれない。
時に、明らかに親ではない署名や一筆があつて「？」と思わされた。親になりきつて文章を書いているときには苦笑する。所詮、子どもの作業でお見通し。
さて、この場合、叱りつける大人は三流。よく事情を聞いて二度としないように諭すのは二流。では、一流つて。その署名の向こう側にある、子の状況を理解してあげることだろう。単なる応急措置だったのか、家族喧嘩で調子が悪いのか、他のものと苦しい状況だったのか。気が付いてあげられる大人が周囲にいてくれることが、子の成長に欠かせない。
左手で書いたり大人びて書いたり、その様子を想像すると何ともいじらしい。

教育長 田原優子

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 秋びより散歩楽しむ足取りに
ゆるりゆるりと ススキ穂ゆれる
梶原恵美子
- ◆ 梶峰の城守らむと戦ひし
父祖眠る地に 我ら生きある
浦野 嘉恵
- ◆ 愛だけが現実であるそのことに
目覚めるための人生だった
野崎 隆幸
- ◆ 稲の穂に 秋の陽差しは降りそそぎ
さやかな風が 穂波を撫でり
川浪 信子
- ◆ 落葉踏みて 一人サクサク去りゆくか
長身の彼が妻を遺して
尾形 節子

俳句 《互選》

- ◆ 身ほとりにふはりと未たる 秋の蝶
富樫 明美
- ◆ 抱かれるる 水子の像に赤とんぼ
本村 則子
- ◆ 霧襖 谷すつばりと 囲みけり
おおやはな
- ◆ 野に出れば音高らかに 落し水
武富 律子
- ◆ 一灯を残し夜長の 文を書く
中嶋 清子

川柳 《多久川柳会互選》

- ◆ 弱かった三男坊が 母背負う
大谷 和
- ◆ 過ぎた日の 苦楽句として
生さてくる
西山 残月
- ◆ 帰って来い 帰ってくるな
親ごころ
田代まつこ
- ◆ コロナ禍の 終見えず 年暮れる
中尾 和弘
- ◆ 開運のダルマ片目のまま
師走
松下 修